令和８年度　文京区立金富小学校　授業改善推進プラン

第４学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	【知識・技能】 １学期の達成率は 82%であった。日々の学習や家庭学習の成果が見られた。漢字の読みの正答率が高く、書き取りの正答率は低い傾向がある。特に都道府県の漢字の定着に課題が残った。また、熟語や語彙の活用については、概ね理解できていた。	都道府県の漢字については４年生以外で学習することはないので、レベルアップタイム等で反復学習に取り組み、定着できるよう指導していく。また、漢字の書き取りが苦手な児童に対して、繰り返し漢字テストを行ったことで９０点以上を取る児童が増えた実績があったので、２学期も継続して指導を行い、できる実感をもてるようにする。
社会	【知識・技能】 １学期の達成率は 76%であった。資料を活用して、都の位置や地形の特色を調べたり水道水が送られる仕組みや施設の働きを理解したりすることに課題がある児童が多い。交通の様子や働き、資料を活用して調べることができる児童が多い。	・地図帳や一人一台端末を活用して、多面的に都の位置や地形の特色を調べさせ、理解を深めていく。 ・施設の写真を並び替えることで、水道水が送られる仕組みや施設の働きを理解できるようにする。また、自分が関心がある施設について調べ、友達と交流することでさらに理解を深められるようにする。
算数	【思考・判断・表現】 １学期の達成率は、64.6%であった。大きい数のしくみを理解して説明したり、自分が考えたことを整理して応用問題を解いたりすることには、課題がある児童が多い。また、角度の学習では、分度器で測定できない角度を計算で求めるなど既習事項を応用して答えを導き出すことを苦手とする児童も見られる。	・授業を進める際には、ノートに自分の考えをわかりやすく書くために必要な「図」「式」「言葉」の視点を大切にするよう伝える。また、数のしくみを図や表などを活用し、視覚的に児童に示すことで定着を図る。 ・学習している単元の既習事項については、授業の中で繰り返し確認したり、求め方を想起したりする場面を設定し、定着を図る。
理科	【思考・判断・表現】 １学期の達成率は 38.5%であった。知識・技能が概ね 90%以上の正答率であることを踏まえると、個別の実験結果や法則は覚えていても、その法則が違った事象や場面になったときにどう働くべきかを類推して考える力に課題がある。	思考のプロセスを養うために①なぜ事象が発生したのか仮説を立てる。②その仮説を検証する方法を考えて、実験する。③実験の結果から、どのような法則が見えるかを考える。④実験の要素を変更した場合、どのような結果になると考えられるか予想する。という展開を継続して行う。
音楽	【思考・判断・表現】 歌唱活動や器楽活動の領域において基本的な技能は身に付けているが、どのように演奏をしたいか自分の思いをもったり、イメージをしたりすることに課題がある。	・音楽の要素を見付けやすい教材を扱ったり、児童自身の経験に重ねて考えられるような活動を設定したりして、思いや意図をもって表現できるようにしていく。 ・目的に応じてペアやグループで意見を交流し、学級全体で共有していく。

図画工作	【思考力・判断力・表現力】 ・友達の作品や身近な場所に関心をもち、さまざまな見方で鑑賞することができている。 ・感じたこと、想像したことをもとに形や色のイメージをもつ力が弱い児童がいる。	児童が表したいイメージをもてるようにするために、場の設定を工夫したり、活動に合った材料の吟味、精選を行ったりする。また、形や色の感じや想像したことを大切にさせながら活動を進めていくように支援する。
体育	【知識・技能】 繰り返し練習する場を意図的に設定したことで、積極的に練習に取り組む児童が増えた。しかし、正しい体の使い方や動きのポイントを意識できない児童や、課題を捉えられず、改善につなげることが難しい児童も見られた。	一人一台端末を活用して動きを撮影・確認する活動を取り入れ、運動のポイント等を視覚的に捉えられるようにする。お互いの動きの良いところや改善を交流する活動を充実させることで、自ら課題を解決しながら技能の向上を図ることができるよう指導していく。また、学習カードやふり返りを活用して自己の成長を実感できるようにする。